



認定特定非営利活動法人（認定NPO）

インド福祉村協会



会報
2020.10.1
Vol.33

India Welfare Village Society News

<http://iwvs.jp/>

インド福祉村協会

検索

E-mail／info@iwvs.jp

特定寄付金に税制上の優遇措置が認可（ボランティア募集中）

新型コロナ
ウイルス
特別版

2020年10月で アーナンダ病院は 開院22周年を迎えました



(ゲプタ医師)



(ルビナ検査師)



(待合室)

アーナンダ病院の新型コロナウイルスへの対策

新型コロナウイルス

2020年2月より発生

▼ 第1次 ロックダウン

3月25日～4月14日総ての交通中止

▼ 第2次・第3次・第4次 ロックダウン

4月15日～5月31日まで継続

毎日6万人患者、
総計700万人世界第二位

9月

<アーナンダ病院>

4月15日より救急患者のみ診療開始

ホームページもご覧ください。

<http://iwvs.jp/>

インド福祉村協会

検索

アーナンダ病院やインド福祉村協会の
情報はもちろん、動画でも現地の様子を
見ていただくことができます。



2019年7月～2020年9月のあゆみ (R1.7月～R2.10月)

19.6月 ● RUBINA GYAN SGIPGI 糖尿病研修会参加	3月 ● 3月21日～4月15日 第1次ロックダウン開始
7月 ● JICAJPP事業 継続、STAFF4名GRP医科大学研修	4月 ● 第2次(4月15日～31日)第3次4次ロックダウン (5月31日まで)
8月 ● 大竹理事三瓶理事現地訪問者 JICAJPP事業発展継続 ● 第1回糖尿病教室開催 ● 三重大学岡部 医師、学生3名(作田・内山・中畠)現地研修	6月 ● インド産業再開、新型コロナウイルス患者は増加傾向。INPAC,T サライ休業
11月 ● 大竹理事現地訪問 ND日本人会VOLグループ、寺西と美氏 ● 石川通子氏、亀井翔子氏現地訪問JICAJPP事業継続	7月 ● 新型コロナウイルス患者1日平均5万人、総計150万人(死者5万人) 世界3位となり失業者、急増、インド渡航21年4月まで禁止
20年2月 ● 大竹理事、三瓶理事、現地訪問、SHARMA社長現地訪問 ● インド、新型コロナウイルス発生 ● ACTYシステム、永田修大氏、皆川大輔氏、秋山幸二氏現地訪問	9月 ● IWVS理事会、ONLINEにて開催 ● 新型コロナウイルス患者1日5～6万人急増、総計600万人世界2位となる
	10月 ● 新型コロナウイルス患者1日10万人以上、総計800万人



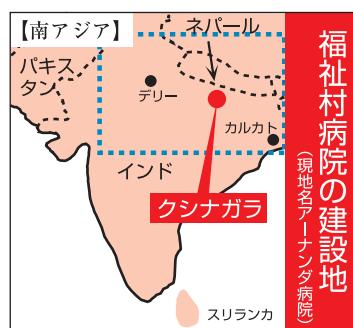
(糖尿病教室)



(糖尿患者)



(薬局)



(自動血圧)

現地住所

ANANDA HOSPITAL TEL:91-92354-24671 / 91-5564-217544
住所:VILLAGE SIRSIA DIST KUSHINAGAR 274403.UP.INDIA

入会のお願い

正会員：年会費(5,000円×□)：総会の議決権があります。協会の会報と情報を毎回お届けします。

賛助会員：年会費(1,000円×□)：協会の会報をお届けします。

特別協賛会員：年会費(50,000円以上×□)協会の会報をお届けします。

法人協賛会員：年会費(50,000円以上×□)協会の会報をお届けします。

寄付協賛会員：円(物品その他)※自由な金額を寄付できます。

一般寄付：文房具、物品他、受け付けています。

すぐ寄付したい方は
オンライン寄付へ



<http://www.giveone.net/>

募金のお願い

少しでもあなたの善意を
分けて下さい。

東海ろうきんのNPO寄付
システムもご利用いただけます。
<https://tokai.rokin.or.jp/shakai/npo.html>

ホームページからクレジットカードで決済ができるようになりました。詳しくはホームページをご確認ください
ホームページ/<http://iwvs.jp>

インド福祉村協会(INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)

理事長／山本左近 常務理事／大竹紘一

理事／三木隆治、伊藤孝道、中村義博、田中久子、K.L.バハール、樋口恵子、加藤伸也、吉田晃

事務局長／請井政広

ホームページ/<http://iwvs.jp> E-mail/info@iwvs.jp

■発行者 インド福祉村協会(IWVS)

■発行人 山本左近 ■編集 大竹紘一 ■協力文創社

■インド福祉村協会事務局

〒441-8124 愛知県豊橋市野依町字山中19-14

TEL:0532-46-7511

FAX:0532-46-4899

アーナンダ病院研修レポート

アクティシステム 岐川 大輔

インドでの研修中、基本的に都会の街ばかりを見学していましたが、意外と栄えているし不便なことはなさそうだが、感じていました。もし研修がアメダバードやムンバイ、バンガロールで終わっていたら、そこで私のインドへの理解は終わっていたでしょう。

しかし、アーナンダ病院を見学させてもらったおかげで、見えていなかったものが見えるようになりました。アーナンダ病院の設備やライフライン、周辺の村の状況などは、ネットや教科書などでは何度も見ていましたが、実際に目で見て体験してみると、自分の理解の浅さを実感いたしました。アーナンダ病院では自由行動をさせていただいていたのですが、その時に何か手伝えることはないかと考えた時に、英語もできず、なんの知識もない自分には、できることを見つける事すら難しく、手伝いたくでもなかなか出来ずにいることを歯痒く思いました。

今後アーナンダ病院のような場所に行く機会はなかなかないかもしれません。しかし私は、アーナンダ病院で感じた自分の無力さを糧にして、何か少しでも貢献できるよう、自分を磨こうと思いました。これからは日本にいてもアーナンダ病院のような場所を保護できるよう、社会貢献をしていきたいと思います。



(部落訪問)

アーナンダ病院研修レポート

アクティシステム 永田 修大



(部落訪問)

ネパールとの国境付近に位置するアーナンダ病院。ムンバイやアーメダバードとは違い、インドの田舎に来たな、と感じました。外灯や建物が少なく、また朝と晩は霧が濃く、幻想的な風景だったのを覚えています。

とにかく驚きが多い研修でしたが、糖尿病チエックのためにアーナンダ病院周辺の集落に訪れた事が一番衝撃的な経験でした。集落内の道は、もちろんアスファルトではなく、家はレンガや藁などでできており、教科書の中でしか見た事のない風景でした。日本から飛行機で1日かかる場所に、全く違う世界が広がっている事を自分の目で見て体験させていただき、感謝でいっぱいです。また、1日に100人近くの患者さんがアーナンダ病院を訪れており、良い病院の必要性に気付く事ができました。ネパールから国境を越えてまでアーナンダ病院に訪れる方も多い事には、驚きました。

医療のために朝から夜まで休みなく働かれているグプタさん、アーナンダ病院を成功させるため日々苦心されている大竹さんをはじめとして、人のために働く方々と関わらせていただき、良い影響を受けました。空港～アーナンダ病院間を車で送つてくださったり、食べ切れないほどの料理でもなしでくださいましたスタッフの方々にも、感謝でいっぱいです。

アーナンダ病院研修レポート

アクティシステム 秋山 幸司

今回の病院見学は、普段体験できない貴重な経験をさせていただきました。アーナンダ病院は豊かな自然に囲まれて、車通りも少なく空気が綺麗な場所です。見学に行くまでは不便なことが多いと聞いていましたが、実際はDr.グプタさんをはじめとした病院スタッフの皆さんのおかげで、とても快適に過ごすことができました。特に料理人のコパールさんは、毎日三食とも美味しいインド料理を作ってくれたり、体調を崩しやすいインドでも健康的に過ごすことができるました。

実際に皆さんが働いている様子を見学させていただき、小さな子どもから高齢者まで、1日に多くの患者さんをDr.グプタさんが診察していることなどでも驚きました。一人ひとりしっかりと会話しているところを見て、多くの患者さんが遠い所からアーナンダ病院を頼り、訪れる理由が分かりました。そして、病院スタッフの大竹さん、三瓶さんと訪れたVishambhampurという村では、電気も通っていないような場所で多くの人たちが暮らしている様子を見る事ができました。インドを観光するだけでは見る事ができない、とても印象的な光景でした。言葉は通じませんが、村の人たちと触れ合うことができ、貴重な体験をさせていただきました。これはとても幸せだと感じています。私ももっと成長し、皆さんの活動を支援したり、実際に訪れて触れ合つたりできるよう頑張りたいと思います。



(部落訪問)

診療の記録

アーナンダ病院 グプタ院長

患者数

月	診療日数	受診者数	受診者数(平均/日)
3月	19日間	1354名	71名
4月	16日間	602名	38名(救急のみ)
5月	25日間	1359名	54名
6月	26日間	1457名	56名
7月	26日間	1598名	62名
8月	23日間	1844名	80名
9月	26日間	1809名	70名

Dr.GuptaとStaffは頑張っていると思います。
インドのコロナウイルス戦争(日本同じ)を勇気づけましょう。

アーナンダ病院は22年間44万人の患者数を診察してきました。長期間の間、病院運営できましたのも日本とインドの協力によるものであり、深く感謝申し上げます。

2020年1月よりインドでも新型コロナウイルスが発生し始め、現在ではコロナ患者は大戦争になりました。3月21日より4月15日まで第1次ロックダウンがインド政府より発令され、すべての人々が外出禁止令となりました。自家用車も使えませんで

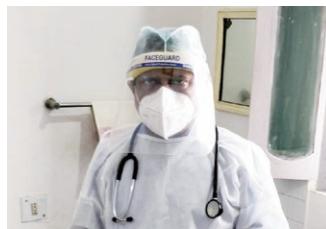


(手洗い)

【患者数】男性43% 女性55% 小児8%

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目
総患者	15,310名	21,140名	18,606名	16,910名	20,636名	22,578名	21,573名	21,275名	15,310名	24,237名	22,548名
新来患者	6,756名	7,946名	6,247名	5,593名	7,547名	8,191名	8,274名	8,143名	6,756名	9,680名	9,217名
再来患者	8,554名	13,194名	12,359名	11,317名	13,089名	14,387名	13,299名	12,800名	8,554名	14,557名	13,331名

	12年目	13年目	14年目	15年目	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目	21年目	統計
総患者	22,623名	18,287名	19,519名	19,212名	20,457名	22,366名	22,312名	22,320名	21,052名	20,633名	437,345名
新来患者	9,245名	7,452名	8,161名	7,897名	8,970名	11,370名	11,935名	11,856名	11,156名	9,688名	184,552名
再来患者	13,378名	10,935名	11,358名	11,315名	11,487名	10,996名	10,377名	10,464名	9,896名	10,945名	252,793名



(グプタ医師)



(受付)



(患者)



(検査室)

アーナンダ病院では私やスタッフ、その家族も新型コロナウイルスには感染せず、診察は1日も休まずに継続しております。患者は少し減少傾向ですがコロナ禍の状況では幸いと思います。10月は少し落ち着いてきました、続けて支援をお願い致します。

アーナンダ病院では私やスタッフ、その家族も新型コロナウイルスには感染せず、診察は1日も休まずに継続しております。患者は少し減少傾向ですがコロナ禍の状況では幸いと思います。10月は少し落ち着いてきました、続けて支援をお願い致します。

新型コロナウイルス、大發生

インドの未来はわからない——希望は偉大でしよう。

インドでの新型コロナウイルス患者数は7月～8月に入り毎日約5万人～7万人、9月10日時点で700万人以上となり、どうとうブラジルをぬきました。10月に入り毎日10万人の患者が発生、総計700万人以上(死者7万人)と推計されており、世界第2位になってしまいました。

4回のロックダウン

インドでは、ロックダウンにより経済活動がすべてストップ。6月1日に経済活動が再開されましたが、農村部の日雇い労働者の仕事はなくなり、現在失業者は1億2千万人にまでのぼり、大問題となっています。

そこで、インドの新型コロナウイルス対策に、日本のJICAによる500億円の補助金がNGOにて供与されることが決定されました。インド政府は、大規模な予算で保健医療の改革計画を発表し、専門の病院とクリニックをデジタル放送でつなぎ、新型コロナウイルス対策に本格的に取り組むようです。

COVID-19 Report 10月1日 (2020)

インド福祉村協会 理事 大竹紘一

遠隔医療 自動血圧測定 最新報告 2020年7月

インド福社村協会 理事 三瓶宏一



三瓶 宏一

2012年1月から開始した自動血圧測定機による血圧測定患者数は2020年7月中旬で累計11万6千人を越えました。以前から報告して

いる血圧正常値(Normal)の患者の割合の減少が、8年で14%減少し全体の50%を割り込んでいます。

高血圧患者数の推移から見ると、最高血圧140mmHg、最低血圧90mmHg以上の定義の高血圧患者(Hypertension)の割合は全体の20%と、この8年で8%増加しています。今年は特に新型コロナ禍の影響で3月下旬から4月中旬まで病院は閉めていましたが、その後のインド全土のロックダウンでも限定的に病院を開け、血圧測定のデータが日本に伝送されなかつたのは2週間分のみで済みました。

図は2012年1月から2020年7月11日までの8年6か月の、1週間毎の血圧患者の血圧を、正常(青色)、前症高血圧(赤色)、高血圧(黄緑色)の3つの割合の変化を表したもので。正常値は夏の気温が高い時期には測定室は平均気温が35°C程度になりますが、その頃には測定数全体から見て正常値を示す患者の割合が60%近くまで上がりますが、1月ころには平均気温が20°C以下になってくると、その割合が40%台以下まで落ちてきます。よってグラフのような夏にピークが来る繰り返しが8年分で8回観測されているのがわかります。

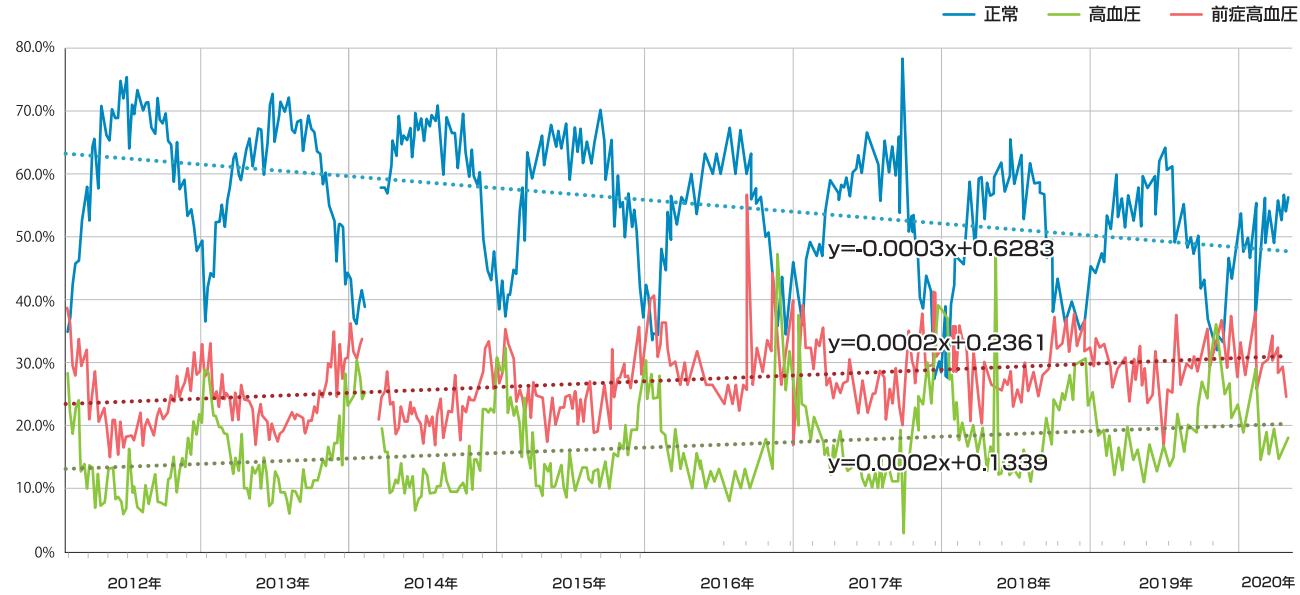
現在新型コロナの影響で活動が止まっているJICAの糖尿病予防活動の再開と共に引き続き生活習慣改善の指導を進める必要があります。



(農村訪問)



(糖尿病教室)



(部落訪問)



(部落訪問)

農村訪問

訪問数(部落) 30
訪問数(世帯) 2,337家族
訪問回数 42回
訪問職員 263人
(うち日本人31名)

受診者数...約6,000名

希望血糖検査810名 高血糖87名

アーナンダ病院のスタッフ毎回7名がテキストブック5枚とPRカードを持って各部落の家長に丁寧に解説し理解を求め、毎回2時間くらいで70家族が受講されました。

糖尿病予防のための教育・啓蒙プロジェクト、2018年3月開始。

JICA JPPP事業

インド農村地区部落訪問

研修レポート

ニュウデリー日本人会VOLグループ 寺西和美 亀井翔子 石川通子（文責）

ナマスティ！私は日本人会デリーボランティアとして、インドに駐在している日本人25人以上が中心となり、活動しているグループで活動しています。

私が日頃支援している施設の中で、一番遠く離れた場所にあるこのアーナンダ病院を、今回3年ぶりに訪問させて頂きました。訪問に参加したメンバーは、初めてアーナンダ病院

を訪れるという事もあり、とても楽しみにしていました。そして病院を訪問した際の第一声は、「インドの病院とは思えないぐらい綺麗で清潔、しかも、院内も混雑していないくて、穏やかな雰囲気です」でした。日頃、デリーなどで見かける病院は、病人なのが付き添いなのか、判断がつかないくらい人で溢れている雰囲気があるからです。

その後、理事の大竹さんより、整理券を配つての事や診察前に簡単なカルテを作成してお話を聞き、納得しましたが、それをきちんと守り診察に訪れるインド人の意識を変えさせた事も本当に素晴らしい驚きました。



(参加者全員)



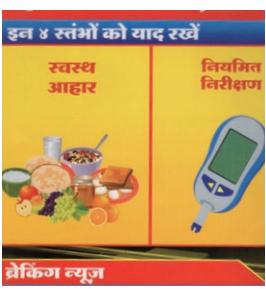
(訪問者)



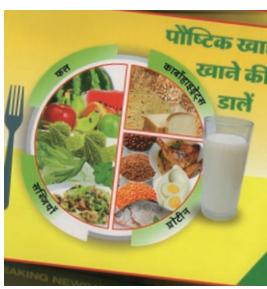
(部落訪問)

多い時は100人診察していると言います。インド人医師グプタ先生をはじめとするスタッフ全員が農村地域医療に対し献身的に続けられるように、今後も継続的にデリーボランティアグループは支援していくたいと思いました。

最後になりますが、施設のご案内や農村地域の訪問を手配してください、たくさんの貴重な経験やお話を現地でしてくれました大竹さんや、アーナンダ病院スタッフ皆様に感謝すると共に、今後もアーナンダ病院が幸せな場所である事を祈っております。



(PRカード)



(PRカード)



(糖尿病教室)

2019年8月開始



毎月1回7回実施
236家族が受講
600名受講



診療経過観察
糖尿病手帳にて経過観察

アーナンダ病院のスタッフ6名がインドの最新糖尿病研修をラクノーSGPGI大学病院とGRP医科大学の糖尿病研修を受け、糖尿病教室にて糖尿病生活指導をしました。グプタ院長が詳しい説明と生活改善を40分にわたり講義をしました。

JICA JPP事業糖尿病研修教室

予防教育(教育ホール)